

JWAF journal

日本勤労者山岳連盟

2023 1

日本勤労者山岳連盟 Japan Workers' Alpine Federation

〒162-0814 東京都新宿区新小川町5番24

TEL: 03-3260-6331 FAX: 03-3235-4324

Mail: jwaf@jwaf.jp

発行責任者/川嶋高志 発行年月/2023年1月



安達太良山

INDEX

- 2..... 理事長あいさつ
- 3..... 第4回・全国登山学校交流集会
- 4..... 部・局・委員会の活動
- 5..... 事故一報の一覧
- 6~7..... 労山基金交付の一覧
- 8..... 全国連盟の活動

「待ち焦がれた時間」

一月ほど前から天候と風速をチェックし続け、「この日しかない」とピンポイントで山行日程を決めたのが功を奏して、この上なく気持ちのいい光景に出会えました。ほぼ無風状態の安達太良山は初めてです。

白崎哲史(岳人あびこ/千葉)



一陽来復

JWAF journal 発刊に寄せて

全国連盟と会員を繋ぐ機関誌・紙はこれまで、『全国連盟通信』『組織・連絡ニュース』『山と仲間』『登山時報』『ろうさんニュース』と、さまざまな発信を続けてきた。1969年5月1日初刊『全国連盟通信』は、1970年11月15日発行のNo12から『山と仲間』と誌名を改め、1986年3月1日発行No195まで発行された。『山と仲間』は、1980年頃にはページ数も140ページを超え、『山と溪谷』や『岳人』と並ぶ山岳三大雑誌のうちの一誌へと成長した。一方、1974年10月25日初刊の『組織・連絡ニュース』は、1976年6月10日発行No17から『登山時報』へと改称、昨年11月15日発行No574に至るまで、46年にわたり毎月発行を継続してきた。

私は東京や全国連盟の役員になってからこうした労山発刊の紙誌を資料として読み返す機会も多いが、今も読み返して共感し感心させられる記述が多い。執筆・編集・発行に携わった多くの諸先輩方に心からの感謝と敬意を表したい。

機関誌・紙の目的は、媒体の種類を問わず、全ての会員が読むことにより組織活動を理解し、共同の目的を達成するための行動につなげていくことだ。それにはまず、構成員の考えを理解することが重要になる。他者の考えを知るために文字は有効な手段となる。人類は文字により相互理解を深め、現在の繁栄の礎を築いた。文字を読むだけでなく、内容を深く理解するためには、想像力が必要となる。想像力が膨らめば、「気づかい」「思いやり」の心も深まっていく。今年から一新する全国連盟の機関紙『JWAF journal』も、会員相互の思いやりへとつながるよう、豊かな想像力を育む紙面を目指す。新紙面では、全国連盟の活動を会員に伝えるとともに、会員の考えを反映した全国連盟活動を展開するよすがとしたい。紙面への意見を積極的にお寄せいただきたい。

寒い日があるものの、日が長くなるにつれ気分は暖かくなり、淡い花の開花も各地で始まってきた。世界中で目を覆い耳を塞ぎたくない現実が続いているが、私たちは少しずつでも登り続けていこう。

日本勤労者山岳連盟
理事長 川嶋 高志

【写真】天女山から望む元旦の富士山

紅葉最盛期の京都大原で開催 第4回全国登山学校交流集会

遭難対策部

場所:大原山荘、金比羅山(京都府京都市左京区)

日時:2022年11月19日 13時~11月20日 13時

13時から石川遭対部長の司会で交流会がはじまり、全国と京都の理事長挨拶に続いて参加者の自己紹介、柳川遭対部員の講義(外科医として職業柄考えている健康対策と健康寿命を延ばす方法)、兵庫・大阪・滋賀・愛知・東京・京都の順に登山学校などの教育制度について報告と質疑が行われた。

夕食の後、感染に気を使いながら懇親会を行い、教育体制以外でも会員数減少への対策など、兵庫・大阪・京都の参加者と久しぶりに膝を交えて話すことができた。

20日は雨模様だったが、坪山京都府連理事長の判断で、8時半から岩場を周回することになり、全国連盟4名、東京1名、岡山1名、京都3名が参加した。上部の乾いた岩場(ホワイトチムニー)では、3本ほどクライミングができた。13時、下山後に帰京。

★参加者23名:東京1名、愛知2名、滋賀1名、京都5名、大阪2名、兵庫3名、岡山1名
全国8名(千葉1名、東京3名、神奈川1名、大阪1名、岡山1名、広島1名)

ホワイトチムニーのルートに登る
全国連盟遭難対策部員▶

▼金毘羅山山頂



交流集会の参加者(大原山荘にて)



部局・専門委員会の活動

■ 遭難対策部

2022年の年間事故数が過去最高に迫る

1月の遭難対策部会での事故一報は、26件・27名。70代の事故者が14名(男8名、女6名)、転倒事故が多発している。ロッジ内での階段踏み外しでの転落事故、岩場の下りで滑落した後続者に巻き込まれた事例も発生している。岩場の訓練で2件、室内壁で1件の事故はいずれも骨折事故に繋がっている。室内壁では110度壁でリード中に墜落しグランドフォールし七か所の骨折となった。ロープワークの失敗であるが、細心の注意が必要であった。海外登山では、70代の女性二人が高度障害でヘリ搬送された。道迷いからの長時間行動が原因であり慎重な行動が求められる。2022年の事故件数、事故者数は、1月11日現在会員数が減少している状況にも関わらず過去最高に迫っている。(遭難対策部長・石川 昌)

■ ハイキング委員会

対面で委員会合宿・労山創立趣旨と活動の歴史を学ぶ

全国ハイキング委員会は2022年度、山口県連盟の大きな支援で10月「第23回全国ハイキング交流集会」を成功させた。それらの成果を踏まえて昨年12月18日、東京都八王子市で8名中7名の委員が参加して「労山の創立趣旨と活動の歴史を学ぶ」合宿を行った。資料として1970年代に労山の各種出版物に掲載された創立メンバーの伊藤正一さんの「私と労山」や「労山趣意書」「50年史DVD」「労山の60年」冊子などを使い参加者の理解と議論を深めた。特に「50年史DVD」を初めてみた委員の一人は「字幕の動きが早い分かりやすい。」との感想が寄せられた。夜はささやかな懇親会、翌日は3名と参加者は少なかったが東京近郊の有名な高尾山ハイキングで交流を深めた。(全国ハイキング委員長・田上 千俊)

■ 労山基金運営委員会

救援費用(かけつけ費用)の適用

過日、関西の会でバスをチャーターして夏山集中山行を実施した。上高地を起点に幾つかの山行を行った内の一つのコースで事故が起きた。内容は頂上を過ぎた所での転倒・滑落事故であった。ヘルメットを着用していたため、最悪の事態は避けられたが、顔面裂傷・鼻骨の骨折・打撲などの重傷だった。幸いに本人が歩けたため、その場で応急処置を行い下山を開始した。上高地の宿泊場所には夜八時過ぎに到着。その後、上高地の診療所で仮治療を受け、精密検査のために松本の病院へ救急車で搬送された。付き添いの要請

があり、会員一人も同行した。処置が終わって、事故者と付き添い者はタクシーで夜中の2時過ぎに戻った。この際のタクシー代の請求は認められるか?という問い合わせであった。

これについて運営委員会は、「交通手段上、やむなき事情」と判断して救援費用の範疇として認めることにした。(労山基金運営委員・伊藤正勝)



谷川岳・天神平で行われた関東雪崩講習会。2023年1月23日

12月7日から1月11日までに届いた事故一報

事故発生日	地方連盟	年齢	性別	山名	山行形態	事故原因		傷病名	
1	11.12	京都	74	男	笠形山	無雪期	転倒	岩が崩れ転倒2m滑落した。	小指骨折
2	11.20	栃木	74	女	古賀志山	訓練	転滑落	調査中/ローダウンの下降中4m滑落しグラウンド フォール。	骨盤骨折
3	12.3	東京	56	女	塔ノ岳	沢登り	転倒	沖ノ源次郎沢遡行後、大倉尾根を下山時に足を捻 り転倒した。	右足腓骨外果骨折
4	11.29	兵庫	76	女	大和葛城山	無雪期	転滑落	葛城高原ロッジ内の階段で足を踏み外して転落し た。	外傷性クモ膜下出血
5	11.13	神奈川	71	女	ロブチェ	海外登山	高度障害	ロブチェから下山中、道に迷い長時間行動し高度 障害となった。	高山病
6	11.13	神奈川	73	女	ロブチェ	海外登山	高度障害	ロブチェから下山中、道に迷い長時間行動し高度 障害となった。	高山病
7	12.3	愛知	61	女	屏風岩	登攀	転滑落	足が滑り左肩を岩にぶつけた。	左肩脱臼
8	12.3	静岡	75	男	大谷ヶ丸	無雪期	転倒	落ち葉に隠れていた木の根に躓き頭から転倒し た。	頸椎圧迫
9	12.3	静岡	79	男	神石山	無雪期	転倒	小沢で苔に足を滑らせ転倒した。	頭部打撲
10	12.11	千葉	75	女	香取神社	無雪期	転倒	神社拝殿裏で足を踏み間違っ転倒した。	大腿骨骨折
11	11.16	岐阜	74	女	老梅山	無雪期	転滑落	上部の登山者が滑落し巻き込まれた。	剥離骨折、靭帯損傷
12	11.20	神奈川	61	女	筑波山	無雪期	転倒	足を木の根に挟んで転倒した。	薬指剥離骨折
13	12.11	東京	45	女	景信山	無雪期	転倒	登山道からの傾斜面で転倒した。	右脛骨腓骨遠位端骨折
14	12.12	栃木	57	男	甲斐駒ヶ岳	氷瀑	体勢	下山中に右膝とふくらはぎに痛みを感じ、4日後 も痛い。	不明/通院中
15	12.18	静岡	56	女	興因寺山	無雪期	転倒	落ち葉の溜まりで足首を捻った。	右足腓骨骨折
16	12.20	埼玉	62	女	大机山	無雪期	転滑落	枯葉で滑り40m程滑落し頭と顔から出血した。	打撲と擦り傷
17	12.3	神奈川	52	女	佐久志賀	登攀	転滑落	終了点にクリップ出来ず約3m程下のテラスに直接 落ちた。	腰椎横突起骨折
18	12.19	神奈川	45	女	人工壁	人工壁	体勢	マット着地時左膝を内側に捻った。	前十字靭帯損傷
19	12.3	兵庫	56	女	荒地山	無雪期	転倒	落ち葉で足を滑らせ木の根に引っ掛かり左膝を痛 めた。	左膝靭帯損傷
20	12.25	埼玉	62	男	幕岩	登攀	転滑落	岩場でクライミング中に滑落し、途中の壁に左足 首を強打。	アキレス腱断絶
21	12.15	東京	75	男	破風山	無雪期	転倒	落ち葉でスリップして転倒し頭を立ち木に打っ た。	頭部打撲、左脚捻挫
22	12.24	東京	72	男	人工壁	人工壁	転滑落	110度壁リードで最終クリップできず、約7mグラ ウンドフォール。	背骨を含め7か所骨折
23	12.30	愛知	68	男	雲母峰	積雪期	病気	下山中、自力歩行が困難となった。	水頭症
24	12.27	香川	78	男	五色台	登攀	転滑落	単独でトレーニング中、クリップミスでグラウン ドフォール。	腰骨骨折
25	12.18	静岡	74	男	笹川コース	無雪期	転倒	山頂手前の緩やかな傾斜で転倒した。	右アキレス腱部分断裂
26	12.18	奈良	69	男	六甲山	登攀	体勢	ブルージック下降の訓練中、バランス崩し腰を強 打した。	腸骨のヒビ
27	12.18	千葉	72	男	伊予ヶ岳	無雪期	転倒	岩場の下りで滑落した後続者に巻き込まれ、転倒 した。	打撲と腰痛

事故一報の受領順で掲載

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	合計
男性	0	0	0	1	3	8	0	0	12
女性	0	0	2	4	3	6	0	0	15
合計	0	0	2	5	6	14	0	0	27

	無雪期	積雪期	氷瀑	沢登り	登攀	海外登山	人工壁	訓練	合計
男性	6	1	1	0	3	0	1	0	12
女性	8	0	0	1	2	2	1	1	15
合計	14	1	1	1	5	2	2	1	27

	転滑落	転倒	体勢	落石(氷)	虫・動植物	高度障害	病気	その他	合計
男性	3	6	2	0	0	0	1	0	12
女性	6	6	1	0	0	2	0	0	15
合計	9	12	3	0	0	2	1	0	27

	骨折	脱臼	捻挫	高山病	断裂	打撲	損傷	その他	合計
男性	4	0	0	0	2	2	2	2	12
女性	8	1	0	2	0	1	2	1	15
合計	12	1	0	2	2	3	4	3	27

労山基金 2022年12月交付認定の一覧

No.	地方連盟	口数等	事故発生日時	山域・山名・場所	山行形態	事故原因	事故状況	傷病名
1	岐阜県	60代男性 10口	2022/01/03 15:00頃	八ヶ岳連峰 赤岳 行者小屋	冬季登攀	凍傷	赤岳主稜を登攀後、行者小屋テント場で異変に気付く。小屋の人から頂いた熱いお湯を飲んで両手を下着の脇で温めながら下山。当日と翌日、病院で受診。現在右手指3本の先端が黒く進行中。	凍傷（右手母指、中指、環指）
2	千葉県	40代女性 5口	2022/02/06 13:00頃	上州武尊山 剣ヶ峰山の北東、直線 距離300m付近	積雪期登山	転・滑落・ 荒天	帰路、剣ヶ峰山の手前300mの地点で前方を歩くメンバーが雪庇を踏み抜き滑落。リーダーが200m下の部の滑落停止地点まで下降して合流。登山道への復帰を試みたが深雪の為時間がかかり登山道まであと200mの地点で雪壁を登れず断念。急斜面でピバークし翌朝9時救助隊により救出。	目の周辺打撲・擦過傷、手指先に軽度の凍傷、全治2週間程度
3	宮崎県	50代女性 3口	2022/02/15 13:30頃	九州 双石山	無雪期登山	転・滑落	ロープと木を握って降りた時、滑って数m滑落。へりて病院へ直接搬送。	右肩甲骨の骨折、肋骨1本変形、脊椎2本ヒビ
4	広島県	40代男性 5口	2022/2/11	中国 備中 ニューエリア	登攀	転・滑落	フリークライミング中滑落。「2度目の春」11b（100岩場）登攀中、4ピン目のボルト辺りで滑落。落ちますとコールしたので予定通りの滑落だったが滑落距離が想像以上に長く足をついた位置から更に落ちた。ぶら下がった状態から地上に降りたが足を骨折。数人の力を借り自力下山。病院救急外来、入院。	脛骨腓骨打撲骨折
5	兵庫県	60代女性 5口	2022/02/06 10:40頃	比良山系 北比良峠 大山口分岐～正面谷 (渡渉箇所)	積雪期登山	転倒	渡渉箇所で木道を渡る際、雪で埋もれた空洞を踏み抜きバランスを崩し顔面より倒れ込む。	顔面、両腕、胸体打撲
6	千葉県	60代女性 5口	2022/02/26 14:13頃	関東・甲信越 横手山 茨峠	山スキー	転倒	茨峠から芳が平に滑り下りる途中、悪雪にスキー板を取られてターンに失敗し、右スキー板が雪面に突っ込みながら転倒。その際、右足首を捻挫してしまう。	右腓骨骨折
7	長崎県	70代男性 10口	2022/02/16 12:30頃	長崎県 矢岳 矢岳岩トレニング場	登攀練習	転・滑落	トップロープ練習時、急激なスリップにより左肩を打傷。帰宅後も左肩が治らず当初は単なる筋肉痛だろうと考えていた。翌日レントゲンを撮り特に異常は見られなかったが、痛みが取れず、MRIでの精密検査を予定。	左肩腱板断裂
8	和歌山県	70代男性 1口	2022/04/25 12:50頃	三重県 大台ヶ原テン ネンコウシ高	積雪期登山	転・滑落	下山開始約1時間後、脇にあった枯れ木に手を触れたとき、上部が折れたためバランスを崩し、約10m転・滑落した。	左手首複雑骨折、頭、鼻、足裂傷
9	福岡県	70代男性 3口	2022/05/14 14:00頃	九州 清水山 山頂より丸 山方向に2～3歩下りた 登山道	無雪期登山	転倒	下山し始めてすぐの急な下り坂が前日の雨で滑りやすくなっており、2～3歩下りたところ後ろに転倒し、左手をついた際に骨折した。	左手首骨折
10	埼玉県	70代男性 3口	2022/06/04 21:00頃	奥武蔵・秩父 十文字峠 四里観音付近	無雪期登山	その他	足元がふらつきバランスを崩して5m程転落し大まき木で止まり、その時に顔に傷を負う。翌日、疲労度が増し、歩行困難となり、救助へリを要請する。	顔面6針縫う怪我、歩行困難
11	千葉県	60代男性 2口	2022/06/24 15:30頃	新潟県 守門岳 保久乳小屋付近	無雪期登山	転倒	守門岳から保久乳コースを下山中、保久乳小屋から15分程度下った地点で窪みに脚を取られ転倒。その際、右足首を強く打撲。	右足首靭帯損傷
12	和歌山県	50代女性 3口	2022/06/19 15:00頃	台高・大峰山系 稲村ヶ岳	無雪期登山	不明	下山後、疲労による右足のむくみと腫れで痛みがひどく、正座もすることができなくなっていたので、数日後に2度受診。1か月後に再受診するよう医師から指示されている。	膝の炎症と靭帯損傷
13	栃木県	70代女性 3口	2022/07/23 08:30頃	北ア わさび平小屋過 ぎた「秩父沢出合い」	無雪期登山	転倒	前泊のわさび平小屋を雨の中出発して小池新道を歩行中、くの字のカーブで上から降りてくるパーティと突然に出合い、安全な場所を確保する間もなく、相手の通過を待っていた。その時事故者が通過者に対してもつと道を広げてあげようとして後退したところ、バランスを崩して仰向けに転倒し左腕の左手首を岩に強打した。	左手首粉砕骨折

14	神奈川県	40代男性 5口	2022/08/11 09:50頃	南ア 黒沢ノ頭 神宮川・笹ノ沢	沢登り	滑落・病氣	2人で溯行中、出合から約15分のところにある三段35m滝の二段目落ち口付近から、一段目の落ち口まで転落。後続の同行者が大きな音で気づき、一段目の落ち口に仰向けで浮いていた事故者に呼びかけるも反応なし。一段目下まで流れ落ちた。約3~4分後に、同行者がうつ伏せで一段目下の滝壺に浮かんでいた事故者を岸まで上げたが、意識はなく呼吸が停止しており、人工呼吸等の蘇生術を実施。13時15分頃にヘリ収容され病院に運ばれたが、死亡が確認された。 検死の結果、心筋梗塞を起こしていた可能性も示唆されている。後頭部に裂傷があるが、それが直接の死因ではないとの見解。後頭部を強打し気絶した状態で顔が水に浸かった溺死か、心筋梗塞が原因かは不明。同行者も落下の瞬間を目撃しておらず、原因不明。	溺死
15	道央地区	50代男性 10口	2022/08/13 16:00頃	大雪山系 ユニ石狩岳 ブ3沼	無雪期登山	火傷	コッヘルでお湯を沸かしていたらこぼしてしまい、両足の甲にかかってしまった。	熱傷
16	兵庫県	70代男性 3口	2022/08/21 15:00頃	北ア 焼岳 中尾峠への 頂上直下直ぐの登山道	無雪期登山	転・滑落	頂上直下から中尾峠へ下山中、登山道から踏み外し崖下に滑落する。	胸部打撲後右側胸水
17	東京都	70代女性 5口	2022/08/11 08:25頃	北ア 後立山連峰 北ノ俣岳 山頂	無雪期登山	転倒	山頂で写真撮影後ザックを降ろし手袋をはめようとした途端、強風で右側に倒れ併当箱の大きさの平らな石に右眉毛を打撲。	右顔面部打撲
18	岡山県	50代女性 5口	2022/08/28 13:15頃	石鏡山山頂より500m ほど下山したあたり	無雪期登山	転倒	前方からの対向者を交わす為谷側に寄った際、踏みしめた笹原の下が穴で左足を取られ右側に転倒した。その際、石に右足をぶつけた。痛みはあるが何とか下山し翌日医療機関を受診した。	右足腓骨骨折
19	和歌山県	60代男性 3口	2022/08/28 14:00頃	和歌山県新宮市 熊野川水系小口川 静閑静	沢登り	虫・動植物	静閑静を溯行中、アブに首筋を刺された。翌日、首筋及び背中上部一面にかゆみと発疹が出来た。	虫刺されによる発疹
20	道東地区	60代男性 10口	2022/09/10 18:00頃	日高山系 コイカクシユ サツナイ岳 コイカク シユサツナイ川 河原	沢登り	熱中症・ 脱水症状	極度の脱水状態で行動不能	熱中症 脱水症状
21	岡山県	50代女性 2口	2022/09/14 11:00頃	中国・四国 雨乞山 標高780m付近 登山口から1.5km	無雪期登山	虫・動植物	30人のパーティーで4班に分かれて雨乞山の頂上を目指して登山していた。1班が通り過ぎて2班の終りの辺で「蜂だ」との声。スズメバチの襲撃に遭い、3班の先頭にいた本人がお尻と足を刺された。急遽、下山して登山口に行き同行者の車で消防署へ向かい、病院に搬送された。激しいかゆみが取れなかったため翌日と三日後、他の病院を二度受診した。	蜂刺されによる皮膚炎
22	兵庫県	80代女性 5口	2022/10/04 11:00頃	朝日連峰 大朝日岳 中ツルコース下山中2合 目付近	無雪期登山	転倒	朝日岳より中ツルコース下山中、2合目越え朝日川本流に沿いに歩行中足を滑らせ、転倒を防ぐため左手で岫壁に岩に手をつき手首を痛めた（その後左手首と親指下の骨の骨折と判明）。その後左手首を固定したため岩の間に足が滑り入り込み、その時に右足踵も痛めた（剥離骨折）。	左手首骨折、右足踵剥離骨折、他
23	福岡県	60代女性 1口	2022/10/02 15:00頃	阿蘇・九重山系 久住山 牧ノ戸峠登山口	無雪期登山	転倒	下山口の牧ノ戸峠の砂利道で転倒し、その時に右足を痛めた。	右足首捻挫
24	兵庫県	70代男性 3口	2022/10/23 13:00頃	六甲 大月地獄谷 地獄大滝左側巻道斜面	無雪期登山	落石 (落水)	ザレた斜面を登っているとき、5~6m上の先行者からの焼き芋大の落石が、事故者の2mほど上の岩で跳ねて事故者の右手上腕部に当たった。	右手上腕部深裂創



全国連盟の活動

2022年11月	2022年12月	2023年1月
1日 自然保護委員会	3日 全国雪崩講習会・講師会議	7日 山筋ゴーゴー体操推進委員会
2日 遭難対策部会	6日 自然保護委員会	10日 組織部会
8日 山岳7団体自然保護連絡会	7日 財政部会	11日 機関誌・紙発行検討委員会
12～13日 全国登山者自然保護集会(全国連盟事務所、オンライン併用)	同日 遭難対策部会	同日 遭難対策部会
15日 三役会議	8日 組織部会	12日 自然保護委員会
17日 登山時報編集委員会	10日 日本ヒマラヤ協会・華甲望年会(東京・主婦会館)浦添会長が出席。	同日 ハイキング委員会
同日 組織部会	13日 三役会議	14日 (公社)日本山岳・スポーツライミング協会、新春懇談会(東京・アルカディア市ヶ谷)浦添会長、川嶋理事が参加。
18日 山筋ゴーゴー体操推進委員会	同日 機関誌・紙発行検討委員会	17日 三役会議、新日本スポーツ連盟、定期協議(東京・新スポ連事務所)川嶋理事、石川・臼井・久保・今野副理事長、小池事務局長が出席。
19～20日 登山学校担当者交流会(京都市、大原山荘・金比羅山)川嶋理事長、石川・臼井副理事長、大和田・三瓶理事が参加。	15日 コンパス記者会見(東京・衆議院議員会館)石川副理事長が出席。	同日 広島県連 山筋 ONE・DAY・サポーター養成講座(広島市)
21日 第7回コンパス専門部会	18日 ハイキング委員会合宿(東京都八王子市浅川市民センター)石川・佐藤・田上・八木沢理事が参加。	24日 労山基金運営委員会
22日 労山基金運営委員会	20日 労山基金運営委員会	26日 機関誌・紙発行検討委員会
24日 第9回理事会	22日 第10回理事会	同日 第11回理事会
27日 アジア山岳連盟総会(インド)大和田理事がオンラインで参加	29日 山筋ゴーゴー体操推進委員会	27日 財政部会
30日 労山基金オンライン説明会		

第9回理事会、討議事項

- ① 全国登山研究集会の結果について:事務局の準備などで不備があったが、全体的には順調に進行し好評だった。コロナ禍の中で、感染することなく80名の懇親会も開催でき二日目のオプションも含めて、無事に終了した。種々の課題について理解は進んだが、これを来期以降の活動につなげていく必要がある。
- ② 第35期第1回評議会について:議案の作成に入るので、各部局委員会は今期の活動報告と来期の活動方針案を、12月9日までに作成し、それを13日の三役会議で検討する。22日の第10回理事会で第1次案を確認する。2023年2月18～19日の評議会日程を予定しておく。

第10回理事会、討議事項

- ① 第35期第1回評議会議案について: 修正提案があれば12月26日中にメールで文面を事務局へ送る。27日には第1次案を地方連盟に発送。
- ② 来期の機関誌・紙について: 12月13日に第1回の機関誌・紙検討委員会を開催。月刊機関紙のタイトルを検討した。27日に2回目を開催して季刊誌の内容も含め確認していく。

第11回理事会、討議事項

- ① 第35期第1回評議会議案について: メディア局の項目は総会での決議にもとづき記載する。機関誌・紙編集委員会での決定事項のみを記載して、第2次案とする。「労山趣意書検討委員会」を立ち上げる。
- ② 来期の機関誌・紙について: 機関紙は「JWAF journal」という名称で、理事長を発行責任者として事務局を中心に毎月発行する。機関誌は年4回の発行で「登山時報」の名称を継続しA4サイズ、40ページを予定する。